協議会の流れ

資料１２

意見を聴く会①結果
（西小・中央小再編）

意見を聴く会②結果
（東部・西部地域/市街地域）

意見を聴く会③結果
（まちづくり住民懇談会）
アンケート結果

検討の進め方と評価軸の検討　第1回　6月30日

現状と課題の共有①
（重要課題1～3への対応方策）　第2回　7月末

現状と課題の共有②
（重要課題4～6への対応方策）　第3回　9月末

課題・対策を具体化

中長期的な学校のあり方
（配置・規模・制度など）の検討①　第4回　10月末

望ましい規模・配置
の考え方、
今後の課題
スケジュール感

中長期的な学校のあり方
（配置・規模・制度など）の検討②　第5回　11月末

複数の選択肢（現状維持・改善・統合等）
のメリット・デメリットの比較　第6回　1月末

絞り込み

意見を踏まえた将来像の検討
基本計画（案）の検討　第7回　3月末

学校のあり方を具体化

パブリックコメント　4月～

重要課題への対応方策の検討（第３回の振り返り）

第2回、第3回において以下の3テーマを含めた6テーマについて、意見交換で具体的な対応方針を検討しました。

第２回の意見交換テーマ

1　多様な主体の意見把握・反映

2　望ましい学校規模と教育環境

3　通学環境の確保

第３回の意見交換テーマ

4　財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

5　地域との関係・郊外校の位置づけ

6　子どもの心理面・学校生活への配慮

①第３回の振り返り（課題4～6）

課題4　財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

校舎整備、廃校後利用、バス経費、維持管理費、将来の児童生徒数を踏まえ、持続可能な再編案をどう検証するか。

学校の方向性と教育方法

- 統廃合した際の選択式の学校選び
- 小中一貫を進めた上で、市街地への学校集約を進めるのが良い
- 早退などへの対応があるため、郊外校は必要
- 市街地は小学生の通学負担に配慮して小学校を残し、中学校を統合
- 各学校で農業的な学習など地域に根差した教育の実施
- 市の教員が他学校にて掛け持ち授業の実施

将来人口を踏まえた再編時期・判断基準

- 少子化した網走市を具体的にシミュレートできるかが肝要である
- 子ども数の目安の基準を定めて、それ以上減少した場合の方針を決めておく
- 今後の入学者数や通学時間を踏まえ、校外校はそのまま残して良い
- さらに子どもが減少した時や校舎が老朽化してきた時に再び検討する

通学方法と通学時間の活用

- 夏季の暑い時期や冬季の待合所が必要
- 送迎はどこか1箇所に集めるのか、家の前まで迎えに行けるのか
- 郊外と市街地では、家に帰って勉強する時間やスポーツの部活をする時間に不平等が出てしまう
- 郊外に住んでる身としては交通手段が一番重要
- バスの1席ずつにタブレットを用意し、朝の会の実施

学校運営体制と子育て支援

- 職員体制の確保が必要
- 学校の現場の意見やビジョンが聞きたい
- 小中一貫校に対する情報が少ない
- コミセンなどを利用した児童館の集約
- 人数が少ないと体育でできないスポーツが出てくる
- 子どもから学校の役割や機能を知りたい

＜今後の方針＞

→市街地校の集約の検討、選択式の学校選びの検討、地域に根差した教育方法

→待合所整備の検討、学校の現場の状況の共有、小中一貫校に関する情報の提供

①第３回の振り返り（課題4～6）

課題5　地域との関係・郊外校の位置づけ

学校が担う地域コミュニティ・防災拠点（給食施設含む）・文化や伝統の継承の役割を踏まえ、学校配置をどう考えるか。

閉校後の校舎活用と管理・費用

- 明確な利用目的がない場合、廃校利用は原則しない方針が良い
- 宿泊施設として活用
- 高齢者が利用できる福祉施設として利用
- 廃校後の管理先は市なのか民間委託とするのか
- 廃校活用は場所によって活用の仕方が変わる
- 使えるものは残して活用しないと財政的に苦しい

子育て機能・子どもたちのつながり

- 今まで利用していた児童館がなくなると共働きができなくなる
- 郊外には子どもが放課後や休日に集える場がない
- 元の校舎はその地域の児童館として利用
- 統合前のメンバーで通学を可能とする工夫が必要であり、登校時間まで変える必要はない
- 子どもは新たな人とのトラブルなどは嫌なため、統合せず少人数が良いとの声も

地域文化・伝統芸能の継承

- 地域ごとの文化や伝統について知りたい
- 今ある良い伝統文化は全部引き継いだ方が良い
- 伝統芸能といった文化的なものなどの地域の中心的な役割は残す必要がある
- 文化の継承は統合され、地域が変わると難しい
- 地域それぞれの特色ある教育プログラムの実施することによる地域との交流創出

まちづくりと人口減少対策

- 学校があることにより人が住んでいるため、郊外校がなくなると地域が衰退する可能性がある
- それぞれの学校が地域とどのような関わりをしているのか知りたい
- 郊外と市街地を分けて考える

＜今後の方針＞

→地域ごとの文化や伝統、学校と地域との関わりの共有

→閉校後の校舎活用の検討、児童館等の子育て機能の検討

①第３回の振り返り（課題4～6）

課題6　子どもの心理面・学校生活への配慮

統合に伴う不安や不登校への影響を想定し、事前交流・合同学習・ICT活用・相談体制をどう整えるか。

統合前の交流と段階的な移行

- 各学校の決まり事に関する意見交換の実施
- 西小学校の全学年との交流創りを参考にする
- 座学ではないレクリエーションなどゲームのような体験による交流
- 統合は1年生になるタイミングから順次行う
- 心の出来上がっていない小学生の統合は難しい

心理的安全性と相談

- 最低限のケアは必要だが、子ども同士はすぐ仲良くなる
- 環境の変化に対応していくための子どものケア
- カウンセラーの先生の人数や対応日数の確保
- 心理士の先生や作業療法士、言語療法士などの確保
- 子育てサークルなどの親の相談先の確保
- 既存の小学校に加わる場合、最初の数年のケア

個別に応じた学び・居場所とICT活用

- 児童の個性に応じたオンライン授業などの用意
- 子ども一人ひとりに合わせた学び、居場所の確保
- 特別支援教育の専門的人材の確保
- 算数の少人数学習を取り入れてほしい
- 一番支援が必要な子どもが安心して学べるような環境づくり

学校・家庭との連携や情報共有

- 学校の規模が大きくても小さくても教員数は多い方が良い
- 教員間の情報共有が重要
- 登校の支援として親が子育てを学ぶ機会の確保
- 保護者と地域への説明会が欲しい

＜今後の方針＞

→各学校の決まりごとの共有や統合前の交流の実施

→個別に応じた学べる体制の検討